

月例給・一時金の引き上げ実現！

それでも物価高騰には及ばず…

確定最終交渉を終えて

ボーナスは0.1月アップで4.50月へ。会計年度
任用職員のボーナスは「勤勉手当」導入へ

■「県人事委員会勧告通り」に実施

民間給与との較差 3711 円 (0.98%) を解消するため、給料月額の引き上げ及び民間の支給割合に見合うよう年間支給月数を 0.1 月分引き上げ (4.40 月→4.50 月)を行います。引き上げ分は期末手当と勤勉手当に均等に配分します。1997 年以来の高水準の俸給表の改定ではありますが、昨今の物価高騰には追いつかない額でした。再任用職員は、0.05 月改善で 2.30 月→2.35 月 (期末・勤勉手当均等)となります。



■高齢層職員の昇級停止

国や他県と均衡を図る観点から、55 歳からの昇給停止となります。55 歳以上の県費教職員約 2000 人に影響がでることになり、全教広島は反対を表明しました。

■暫定再任用職員の処遇改善

フルタイムの暫定再任用職員の給料月額について、定年引上げによる 60 歳超の常勤職員の給料月額の水準を念頭に調整し、定年延長者の給与月額の間中値を目安に改善します。月額 1 万 7 000 円を超える引き上げで、年額では 25 万円を超える大幅引き上げとなります。大きな改善となりましたが、ボーナス支給月数や生活改善手当 (扶養手当、住居手当) の改善とはならず、今後の課題です。また、今回の改善はフルタイムの暫定再任用職員の給料月額には適用されませんが、短時間勤務再任用者は対象にならず、今後の大きな課題となりました。

■会計年度任用職員の期末手当・勤勉手当

今年度、期末手当に 0.1 月プラスして 2.6 月分支給 (現 2.5 月) します。※差額支給。来年度、会計年度任用職員へ「勤勉手当」を支給します (一方で成績率の導入もセットに)。職員にも管理職にも負担のかからない方法を模索してほしいと要請しました。4 月遡及改訂は、月額任用者のみで学校現場には該当者なしとなり、今後の課題となりました。

■査定昇級の分布率の見直し

査定昇級の分布率を国基準に準じて改定する必要があるとし、S1 (極めて良好)、S2 (特に良好)をそれぞれ【1%→3%、3%→9%】としました。全教広島は、「分布率の拡大は教職員間に新たな分断を生むものであり、教育の同僚性を損なう」とし反対を表明しました。県教委は、「管理職との信頼関係が重要」とし、「この制度の検証を引き続いて行っていく」としました。

「働き方」改革などで課題は山積しています。「ひきつづき真摯な対応を求める」ことを強く申し入れて今年の確定交渉を終結しました。

今年も仲間のみなさんからの多くの署名や切実な声を背景にして大きな成果を獲得することができました。ありがとうございました。



別紙にて ZENKYO 広島〈速報版〉を同封しています。コピーして職場への宣伝をお願いします。

学校にいらないもの、必要なもの…

まだまだありそう！



前回ご報告した職場訪問が「呼び水」となって、さまざまな声が寄せられています。

「それは確かにそう！」「うちの職場も同感です！」などの反応を寄せていただいて、市教委との折衝でも議題にすることができます。ひきつづきお電話、ライン、メールなどで実態や思いをお寄せくださいね。

■ 陸上記録会はいらない！—A小学校

職場訪問ありがとうございます。

うちでは、陸上記録会がいらないって話になってます。陸上記録会のために、放課後交代でライン引き&指導しました。その上に休日に6年担任は竹ヶ端へ。水泳記録会はなくなったのに、陸上は残っている…しかも、全員に記録証を手書きで記入しないといけない。

■ 特別支援学級から通常学級への種別変更をめぐる—B中からの報告

B中の校区内にあるC小での実態です。特支Co.の先生からの情報です。C小では例年、B中への進学と同時に特別支援学級から通常学級へ種別変更を希望する方が多数おられるようです。自情のクラスだけではなく、知的のクラスでも同様のケースがあります。(略)

小学校でしっかり力を付けてもらい、中学校の通常学級でも頑張れそうだから通常学級に行きたい！と本人たちが自信を持っているのなら良いのですが、どことなく雰囲気異なっていそうです。通常学級に在籍する生徒の中で、元特支の生徒が【落ち着けない】【指示が聞けていない】【集団に馴染めない】等の話を聞くたびに、特別支援教育の根本ってなんだろうと思わされる状況です。

■ 高校入試を考えての変更では？—元D中学校

うーむ…私が以前勤めていたD中でも小学校では特別支援学級だったけれど、中学校になったら通常学級へ…という生徒が一学年4クラスでしたが3~4名はいたと思います。地域の特性というのがあるのかどうかわかりませんが、高校入試を考えて通常学級へ…と考える保護者が多かったのでは？と捉えています。

特別支援学級では高校入試に対応する学力をつけてもらうのが難しいと思われたのかもしれませんが…

■ 市教委に問い合わせた保護者に伝えていました—A小学校

知的にいて、療育手帳がない場合、中学卒業後の進路が見えないというのがあります。下学年の教科書しかもらえないと、高校入試にも不利だと考えてしまうこともあります。中学校の知的特別支援学級卒業生の進路をしっかりと伝えることも必要です。

いつも市教委に問い合わせた保護者に伝えていました。

■ 正しい進路情報の提供を—E中学校

正しい進路情報が必要だと思います。誰が広めるべきなのかもしれませんが。知的のように内申が文章で作成され、高校側はひと目で特別支援学級の子ということがわかるにしても、知的というだけで不利になることはしないという前提があります。現実、過去に合格した生徒は何人もいます。市教委交渉などで、いきなり個別事例で学校名を出すようなことはありませんので情報をお寄せください。

こんな政治でいいはずがありません！

～自民党派閥の裏金問題、疑惑底なし もはや政権を担う資格はありません！～

この項は12/13現在の情勢を踏まえて書いたものです。その後の進展によっては誤りが生じているかもしれません。ご理解ください。

さながら“令和版リクルート事件”の様相に…

自民党最大派閥の清和政策研究会（安倍派）の政治資金パーティーを巡る裏金疑惑が岸田文雄政権の基盤を揺るがす大問題に発展しています。1000万円超のキックバックの不記載が発覚し、国会で追及されている松野官房長官の辞任論が与党内で強まっています。松野氏に続き西村経済産業相など重要閣僚や自民党役員らの裏金の実態も続々と表面化しており、疑惑の広がりとはどまるところを知りません。ことは松野氏の辞任だけでは済まされません。疑惑解明に背を向け、説明責任も果たさない岸田首相に政権を担う資格はありません。さながら“令和版リクルート事件”の様相を呈しています。



臨時国会での厳しい追及がつづきました

どこまでも不透明な「政治とカネ」、首相の任命責任

岸田政権では22年に「政治とカネ」や統一協会との癒着などで4閣僚が立て続けに辞任に追い込まれました。今年9月の内閣改造後も副大臣2人、政務官1人が疑惑と不祥事で職を辞しました。内閣の要である官房長官の進退が取りざたされる異例の事態を引き起こしていることで、首相の任命責任が一層厳しく問われています。

もはや金権腐敗体質そのものにメスを入れるとき

捜査中の東京地検特捜部は、安倍派も含め数十人規模の自民党議員への事情聴取を検討しているとされます。不正をまん延させた自民党の金権体質に今こそメスを入れる必要があります。

首相には「統一協会」疑惑も

岸田首相が19年の自民党政調会長当時、党本部で米国元下院議長とともに統一協会の関係団体「宇宙平和連合（UPF）ジャパン」の議長らと面会していた問題も重大です。首相は統一協会の関係団体と承知していなかったと主張していますが、記念撮影や名刺交換をしており、疑念は深まるばかりです。真相を隠さず語ることが首相の最低限の責任です。

子どもたちに、清潔で正しい政治を届けましょう

教室（授業）でこの一連の事態を話題にした中学校のある先生は、「子どもたち（中3）が“裏金問題って、いったいどういうことが起こっているの？”と質問してきます。子どもたちだって、この政治はどこかおかしいとわかっています。“言っても政治は変わらない”という大人社会のありようがこうした金権腐敗体質を温存させていることをあらためて自覚し、政治をよくすることが子どもたちの健やかな成長を保障するためにどうしても必要だと思っています」と言われます。

来春（4月）には福山市議選も予定されています。教育と政治を考える機会にしていきたいと思えます。

～ 2023年の年末にあたって—全教福山の仲間のみなさん～

「官房長官 更迭へ」「岸田首相 統一協会系トップと面会か 首相も統一協会広告塔」「ガザ停戦 米が葬る～安保理決議案 拒否権行使」といった見出しが新聞一面に大きく躍っています（12/10）。

2023年は、自民党安倍派による組織的な「裏金」問題という、日本政治史に“真っ黒”に残るであろうスキャンダルの中で終わろうとしています。まさに「令和版リクルート事件」です。岸田政権をはじめ歴代自民党政権による国民無視、大企業・アメリカ最優先の政治がいよいよ行き詰まり、政権末期を迎えていることは間違いありません。

世界では長引くロシアによるウクライナ侵攻に加えて、パレスチナ問題が再燃し多くの市民のいのちが奪われています。「僕たちが何を悪いことをしたというのだ？」と泣きながら訴える子どもの映像には胸をしめつけられます。

私たち全教は今年も、平和と民主主義、本当に人間らしい教育者にふさわしい働き方を求めつづけてきました。全教福山はいつも憲法と子どもの権利条約を高く掲げて、父母・市民とともに子どもと教育を守るための確かな歩みを進めてきました。今年もそういう1年だったと思います。そしてそれができたのは、日々職場で、本当にさまざまな困難な状況の中で奮闘くださっている仲間のみなさんの存在があったからです。誰も声を上げなければ、あきらめてしまったらそこから状況は悪化していくしかありません。確定交渉の結果からも明らかのように、言いつづけることが情勢を切り開いてく唯一の方法です。

来年もまた、仲間のみなさんとともに確かな地歩を固めていきたいと思っています。

冬休みは短期間ではありますが、健康に留意していただきご家族やご関係のみなさんとゆっくりお過ごしいただき、英気を養ってくださいますことを願っています。

仲間のみなさんには今年も大変お世話になりました。どうぞよい年をお迎えください。



当面の予定

2024年1月

- 5（金）広島県労連 ‘24旗びらき（18：15 広島ガーデンパレス・鳳凰）
- 6（土）教組共闘中国ブロック代表者会議（～7日 山口県・湯田温泉）
- 12（金）全教福山執行委員会（19：00 書記局）
- 16（火）福山地区労会議幹事会（18：30 川口東交流館）
- 23（火）子どもと教育を守る福山市民の会事務局会議
（19：00 書記局）
- 27（火）広島県労連評議員会（13：00 ロードビル&オンライン）

